



あんどう ゆきお (学術)
安東 由喜雄

昭和28年(1953年)7月9日 生
(満71歳)

【写真は本人提供】

安東氏は大分県別府市出身。40年にわたりアルツハイマー病に代表される神経関連アミロイドーシス、特に家族性アミロイドポリニューロパチー(FAP)の研究や診療等に取り組み世界をリードしてきた。県内に患者集積地があることから研究を始め、遺伝性神経難病の遺伝子診断センターを立ち上げた。同センターではFAPをはじめ様々な遺伝性神経難病の遺伝子診断システムを構築、診断に貢献した。これにより現在、熊本大学脳神経内科はAMED主導の未診断疾患イニシアチブの九州の拠点となっている。その後は病理診断、遺伝子解析、プロテオミクス解析、患者ケア、カウンセリングを一貫して行うアミロイドーシス診療センターを創設。日本、中国、韓国、台湾、インドネシアなどの東南アジアの患者の診断・診療に寄与した。自律神経機能検査においてはMIBG心筋シンチグラフィーなど様々な新たな自律神経評価法を世界に先駆け確立。また氏の設立したFAP患者会「道しるべの会」は国際的な患者会交流の場ともなっている。氏は一貫して神経アミロイドーシスの臨床的・基礎的研究、診療に取り組み、一地方の遺伝性疾患と思われていたFAPについて病態解析、治療法の開発や世界に広がりを持つ疾患であることを証明した。また東洋人初の国際アミロイドーシス学会理事長に選出。国際FAPシンポジウム、国際アミロイドーシス学会など重要な世界の学会を熊本で開催した。本疾患の治療では、肝移植の導入、新薬の開発などで絶えず新たな知見を世界に発信し続けている。

これらの功績からアメリカ自律神経学会優秀演題賞、熊本医学会賞、スウェーデンHonorary PhD賞、日本臨床検査医会賞、日本神経治療学会(治療活動)賞、(公益信託 臨床検査医学研究振興基金)小酒井望賞、熊日賞、日本神経学会賞、日本自律神経学会賞を受賞している。

昭和58年 熊本大学医学部卒業

平成18年 熊本大学大学院医学薬学研究部 病態情報解析学教授

平成24年 熊本大学大学院生命科学研究部 神経内科学分野教授

平成29年 熊本大学医学部長、大学院生命科学研究部長、大学院医学教育部長

平成30年 国際アミロイドーシス学会長

平成31年 アミロイドーシス病態解析学分野教授、熊本大学名誉教授

令和6年 医療法人杉村会 杉村病院総長

アミロイドーシス診療・研究センター